

# 花だより



## 今あるものをどう活かすか

理事長 石井真吾

平昌パラリンピックが終わろうとしています。連日、日本選手の活躍が報道され、平昌五輪での感動が再燃しています。パラアスリートたちが、なくしたものを嘆くのではなく、今自分が持っているものをどう活かして、どう輝かせていくか、諦めずに果敢に立ち向かう不屈の闘志を、目の当たりに見せてくれる姿に、圧倒されてしまいます。「凄い」の一言です。



「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に活かせ。」パラリンピック創始者グットマン博士の名言だそうです。羽生選手のコメダル獲得に感動したのも、私たちに、この名言を体現して見せてくれたからでしょうか。一過性かもしれないませんが、大怪我という障害を見事に乗り越えました。

スポーツ以外の世界でも障害者の方々が、歌ったり、踊ったり、演奏したり、各界、各方面で活躍しています。それが当たり前になるといい。そう願っています。

さて、花では、今年の七月から毎月1回「花の将来を考える会」を、役員職員だけでなく、利用者家族の皆さん方にも呼びかけて開催しました。全員無報酬であるにも拘わらず多くの方々に参加していただき、人財育成、施設整備、事業推進など、花が直面する課題に対して様々な意見や花に寄せる期待・気持ちをたくさん聞かせていただきました。危機管理対応や人手不足対応などで目に見える成果を上げています。これも参加してくださった方々のお力添えあつてのことと感謝しております。



参加した誰もが遠慮なく話し合える場がある、こういう機会を通してお互いの信頼関係を築き、連携を強固にしていきたい。まさに、これまで花が大切にしてきたものの二つが、しっかり息づいていると実感しました。

一方で、利用者の方皆さん方にとって、花は安心して暮らせる自分の居場所になっているでしょうか。いつも変わらない皆の中に考え寄り添ってくれる人がいるでしょうか。これも花がずっと大事にしてきたものの一つです。

